



# 関西医科大学 広報

*Kansai Medical University Public Relations*



## 建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

理事長就退任  
特別号

“雄雄しく生きむ <sup>くすし</sup> 医の道に”



6月  
から  
舵  
取  
り  
は  
山  
下  
新  
理  
事  
長

5月26日リーガロイヤルホテルにおいて開かれた理事長就退任披露宴。花束を手に記念撮影に納まる塚原勇前理事長(左)と山下敏夫新理事長

## C O N T E N T S

塚原勇前理事長退任挨拶	2
山下敏夫新理事長就任挨拶	3
徳永力雄常務理事から前理事長へのお礼の言葉	4
澤田敏副学長から新理事長へのお祝いの言葉	4

## 法人

## 退任挨拶

## 34年半の関西医科大学生活を振り返って

## 総合計画が完了すれば未来は明るい

前理事長 塚原 勇

本年5月末日付で本学理事長を退任することになりました。本学の皆様には長年お世話になりました。心からお礼を申し上げます。

私は本学に2回就職し、この度2回目の退職をする事になりました。

第1回目の勤務期間は、昭和41年(1966年)4月1日から昭和50年(1975年)4月30日までの約9年間で、第2回目は昭和60年(1985年)1月1日から平成22年(2010年)5月31日までの約25年半であります。両者合わせると約34年半になります。

第1回目は眼科の教授として、第2回目は学長8年間、うち5年間は学長と理事長を併任、理事長専任が17年間あります。

眼科の教授として赴任してきた昭和41年当時の眼科の設備の程度は極めて低いものでありました。病棟に眼科の定床はなく、外科の病床の一部を使わせてもらっていたようです。赴任して直ちに回診したところ、わずかに2人の眼科の患者さんが外科の患者さんの間に寝ていました。病院の事務長さんが「眼科にも入院患者が常にいるもんですか」と驚いたことにはこちらも驚きました。外来の設備も戦前の水準以下で大変驚きました。

しかし、荻生規矩夫理事長・学長、岡宗夫常務理事両先生のご支援により、新しい最新の眼科機器、例えば西独カールツァイス製光凝固装置、細隙灯顕微鏡、手術顕微鏡、眼底カメラ等高価な眼科医療機器等を次々と購入していただき、また新しく増築された病棟に20床の病床を準備していただきました。さらに昭和41年の卒業生が8名入局してくれましたので、意外に早く新しい眼科への準備が整い出発しました。やが



「ご苦勞様でした」参加者全員が拍手で見送る

て京大から福地悟・助教授も加わり教室は発展していきましたが、昭和50年5月、私は京大へ転勤することになり、楽しかった思い出を胸に関西医科大学に別れを告げました。



退任の挨拶をする塚原前理事長

昭和59年末、京大で定年まであと1年3ヵ月程を残していた頃、突然「関西医科大学の学長になってくれないか」という話をいただき、いろいろ考えた上受諾し、昭和60年(1985年)1月1日付で就任しました。

学長に就任してまず遭遇したのが医学教育の問題で、財団法人医学教育振興財団理事長であり順天堂大学理事長の懸田克躬先生に懇意にいただき、同財団の理事に就任、後に社団法人日本私立医科大学協会会長となり、ヨーロッパ、アメリカの医学教育視察旅行に参り、医学教育を勉強しました。1960年代頃から米国では医学教育改革の芽生えが見えていましたが、1985年頃からGPEP報告やハーバード大学のNew Pathway(日本ではtutorial)等が有名となり、わが国の医学教育改革も活発になりました。また、わが国でも医学研究の高度化を目指して次々と新しい計画を企画しつつあります。医療の進歩も急速であります。

このような状況に対応して本学では総合計画を立て、1)近代的な附属病院の建設、2)新しい近代的な教育、研究施設の建設を公表しています。これに従って、新しい附属病院を枚方に建設し、病院は平成18年1月早々に開院しています。次いで教育、研究施設の建設の準備を進めているところです。さらにできるだけ早く看護学教育(研究)施設、滝井病院の新築が続き、これらが終われば本学施設整備が完成します。以後、本学の経営も安定に向かい、大学の水準もさらに高まるでしょう。まだまだ皆様のご苦勞は続きますが、前方は明るくなってきました。本学のさらなる発展と皆様のお幸せを祈ります。いろいろお世話になりました。もう一度心から感謝申し上げます。

## 法人

## 理事長就任にあたって

## 当面、3つの標語 是非実現

## 新学舎建設・財政健全化・改革なくして発展なし

## 新理事長 山下 敏夫

この度、塚原勇前理事長のご退任に伴い、その後任として理事長に就任することになりました。ご指導、ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

就任受諾に際しまして、私自身、多方面から深く考え、何人かの方からさまざまなご意見を聞き、結果としてお引受けする決心をいたしました。就任する以上、本学のために持てる情熱を注ぎたいと思います。

さて、抱負ですが、本学80周年記念講演会の挨拶で述べたことと重なりますが、改めて述べてみたいと思います。

本学は今、古くなった施設・設備やシステムを時代のニーズに対応すべく大幅に更新する時期であり、本学が80余年の歴史の中で経験する大きな転換期だと思ひます。まず新学舎を完成させ、本学創立以来の夢であった「学園」を枚方という広い校地、抜群の環境、かつ交通至便の地に作り、理想的な教育・研究環境を整えたいと思ひます。さらに京阪沿線に沿って、今や高い評判を得ています枚方病院、開院間近の香里病院、そして新しく生まれ変わるであろう滝井病院と、これらの3病院体制で大阪北東地区の健康、医療、福祉を担いたいと思ひます。すなわち今後少なくとも創立90周年を迎える平成30年までには本学の施設をまず十分に整え、さらにその後の10年間で、財的、人的資源を教育・研究・医療に投入し、良い医学教育を行い、その結果として育った実力ある医師集団に患者が集まり、病院のレベルも上がると同時に経営の安定化が図れるという医科大学としてのまさに正のスパイラルに入ることを目指します。

その実現のために、まず手法としては本学が従来より掲げています中長期経営ビジョン「アクション 2015 + ジャンプ 2020」を基盤として、その上に学長アドホック委員会を模した理事長特命作業部会(仮称)を目的に応じて立ち上げ、これを縦横に機能させたいと思ひます。ご承知のように学長アドホック委員会では構

成員を各職域から選び、かつ必ず学長自らが参加することにより諸案件を即断即決し、実行してまいりました。この作業部会もそのようなものをイメージしています。

就任挨拶する山下新理事長

本学がこれから取り組むべき重要事項について、少し具体的に何を行いたいかを申し上げますと、

- ①施設整備の完遂 — 平成25年春には新学舎をオープンさせ教育・研究・診療の一体化を図ります。同時に看護学校の牧野移転により、看護教育環境の充実を目指します。さらにその数年後、遅くとも平成30年までには滝井病院を一新し、地域の医療センター化を考え、またOMMメディカルセンターの機能強化も視野に入れたいと思ひます。
- ②人事トータルプラン — 本学の人事施策の中長期計画を立て、それに則り、教職員の人材育成プラン、業務改善と時間外労働の抑制、業務委託の見直しなどを行います。また勤務医の負担軽減策から始まる全職種のQOLの向上を目指したいと考えています。
- ③地域医療の整備 — 諸システムの統一、物流の完全一元化などによる附属3病院の機能連携強化を行い、その上で、各病院とその地域での病・病・病・診連携の強化を図りたいと思ひます。
- ④財政基盤の安定 — 患者サービスと医療安全を十分踏まえた上での病院収支大幅改善、教育・研究活動強化に伴う経常費補助金増額、借入金の総額減額とその手法の見直しなどにより、本年を本学の財政健全化元年としたいと思ひます。
- ⑤管理・運営の強化 — 十分なコンプライアンス遵守のもと、柔軟性があり、活力ある大学と法人の運営を行いたいと思ひます。

以上抱負を述べさせていただきました。「新学舎建設」「財政健全化」「改革なくして発展なし」を当面の標語とし、これらを是非実現させたいと心から願っています。現実に今年香里病院開院、滝井病院病床数減少などがあり、大変な激動の年です。足元をしっかりと見据えた教職員の皆様の日々のご努力を心からお願いしたいと思います。



内藤評議員から新理事長に花束贈呈

## 法 人

## 前理事長 塚原勇先生へのお礼

常務理事 徳永 力雄



塚原先生は、1966年から9年間本学眼科学講座第三代教授としてご勤務の後京都大学に戻られ、改めて1985年に本学第五代学長に就任、さらに1988年に第九代理事長に就任され、以来今年5月31日まで本学を統率されました。永年のご指導とご功労に対し深甚なる感謝を捧げます。

眼科学教授時代は、最新医療機器の整備、診療体制の全国トップレベルへの向上、専門医育成などに多大の実績を挙げられました。

学長時代は、医学教育の改善に情熱的に取り組み、推薦入学制度の創設、卒前医学教育カリキュラムの改善、教授法ワークショップの推進、教養部図書館の建設、日米医学教育シンポジウムや第23回日本医学教育学会の開催、文部科学省関係の審議会活動など、医学教育の改革と前進のすべての過程において率先垂範されました。

## 医学教育改革と前進に率先垂範

## 大学人としての先見性と識見

研究面においては、研究者を鼓舞されて先進的研究風土の涵養に努められ、生命医学研究所等研究施設の整備・充実、科学研究費・大型研究プロジェクトの獲得に尽力され、優れた研究成果を生む基盤を築かれました。

理事長としてのご功績は、附属病院（滝井）南館・北館建設、附属枚方病院新築、関西医科大学香里病院の再生に至る最近20年間の一連の病院群再編成事業であります。先生は、理事長就任当時、本学の未来を透察して、恒久的医療施設の整備こそが本学の発展の推進力になると確信し大規模建設に着手したと述懐しておられます。まさに、本学の医療水準の向上と医師の生涯にわたる研修体制の向上を願った先生の強い信念の具現と申せます。そして、何よりも先生が長年に亘り培われた医学・医療、教育・研究、学術・文化に対する大学人としての先見性と識見の表れであります。

塚原勇先生が関西医科大学の歴史に刻まれた実績を受け継いで、我々後進はそれをさらに発展させることを誓い、御礼に代えさせていただきます。有難うございました。

## 山下敏夫学長の理事長就任を祝す

副学長・理事 澤田 敏



この度、平成22年6月1日付で関西医科大学山下敏夫学長が学校法人関西医科大学の理事長に就任されました。この紙面をお借りして、心から理事長の御就任をお祝い申し上げます。山下敏夫先生は本学の耳鼻咽喉科学講座主任教授を15年の長きにわたって務められ、御自身の教室を我が国では一・二を争う大教室に育て上げられました。その後、平成19年の学長就任以来、短期間に数々の教育改革を断行されて関西医科大学に新風を吹き込まれ、教育・研究面に大いなる足跡を残されました。現在は山下敏夫学長の努力の賜物とも言うべき大学改革の成果が教学面のみならず法人運営にまで好影響を及ぼしてきており、この事実を全教職員は肌身に感じていることと思います。

この度の山下敏夫先生の理事長就任は、このような基盤の上に立ってのことであるため、我々教職員一同は関西医科大学の将来に“大いなる安心”を抱いたのではないかと思います。次いで、教職員の心に湧いてくる期待は“関西医科大学の発展”であり、本学が私立医科大学の特色を生かした独自の進化を遂げることであり、このことが山下敏夫新理事長の就任によって成就されることになると思います。

また、山下敏夫先生は極めて聡明で、愛校心の強い先生であり、大学・法人の発展のためには努力を惜しまない滅私奉公の精神をお持ちの先生であることは多くの教職員が承知しております。

今後、山下敏夫先生におかれましては学長・理事長職として極めて多忙な激務が山積しておりますが、先生の愛校心で関西医科大学のかじ取りをお願いいたします。

我々教職員一同も、山下敏夫学長・理事長の指導力を大いに期待することは論を待ちませんが、また、我々も新理事長と心をつなげて職務・職責を全うする覚悟であります。

最後になりましたが、山下敏夫先生におかれましては今後とも健康に留意され、指導力を発揮していただき関西医科大学史、否、我が国の医学史に名を残す名学長・理事長になられんことを期待いたします。

## 関西医科大学広報 特別号

発行 学校法人 関西医科大学  
編集 総務部 広報課  
〒570-8506 大阪府守口市文園町10-15  
TEL 06-6992-1001 (代表)  
FAX 06-6993-5221

<http://www.kmu.ac.jp/>  
E-mail [kmuinfo@takii.kmu.ac.jp](mailto:kmuinfo@takii.kmu.ac.jp)  
平成22年6月15日(火)発行